

平成24年度

時間外電話相談

「育児もしもしキャッチ」

—相談情報分析結果報告—

あいち小児保健医療総合センター

あいち小児保健医療総合センター保健センターでは、平成 13 年 11 月のオープン時より、県民の育児不安を軽減し、健やかな子育てを支援することを目的に、時間外電話相談「育児もしもしキャッチ」（以下、「育児もしもしキャッチ」）を開設している。

開設当初は、月曜日から金曜日まで開設していたが、当センターの外来診療日の変更に伴い、平成 15 年 5 月より火曜日から土曜日に相談日を開設している。

「育児もしもしキャッチ」

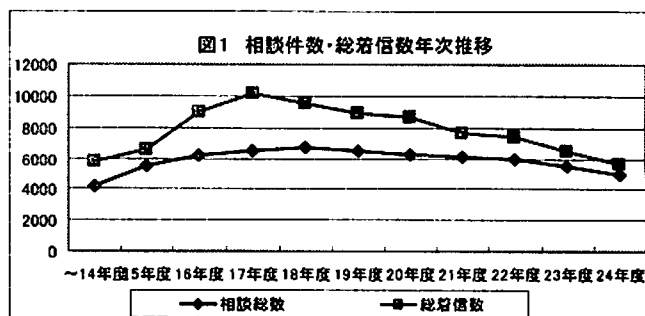
主な相談内容	母子健康手帳を活用する年齢層の母等を対象に、健康や育児について
開設日時	火曜日から土曜日 午後 5 時から午後 9 時まで（4 時間）
相談担当者	保健師、助産師、看護師等の専門相談員が、毎回 2～3 人で応対
相談体制	当センターの保健師 1 名が相談終了まで勤務する体制をとり、困難な相談への助言、連携の必要なケースを地域に繋ぐ役割等、相談員をバックアップしている。
相談記録の記載方法	相談は原則匿名としているが、相談終了時に相談者の住所、相談経路は聞いている。電話相談員が相談記録を記載し、予め設定されている「相談内容分類コード」に従い内容の分類を行っている。

【平成 24 年度の事業内容】

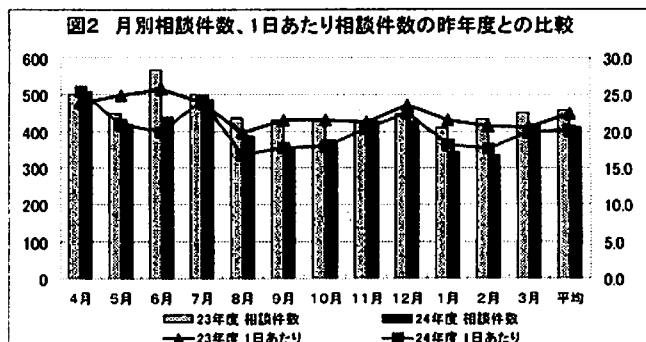
平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日までに寄せられた相談情報を保健部門のシステムに入力し、地域別利用数や相談者、相談時間、相談内容等に注目して分析した。

1 相談総数・総着信数について

期間中の相談総数は 4,923 件、総着信数（電話に応答中のため応答できなかった件数をあわせたもの）は 5,667 件であった。相談件数は昨年度より 565 件減少しており、平成 14 年度（平成 13 年 11 月から平成 15 年 3 月以下平成 14 年度と表記）の相談件数は、平成 18 年度まで増加し、その後は平準状態となり近年は減少の傾向にある。また、平成 17 年度がピークであった対応不能件数が減少してきており、今年度の対応不能件数は 744 件で昨年度の 1,016 件より 272 件減少しているものの依然として 13%の相談に対応不能の状態である（図 1）。



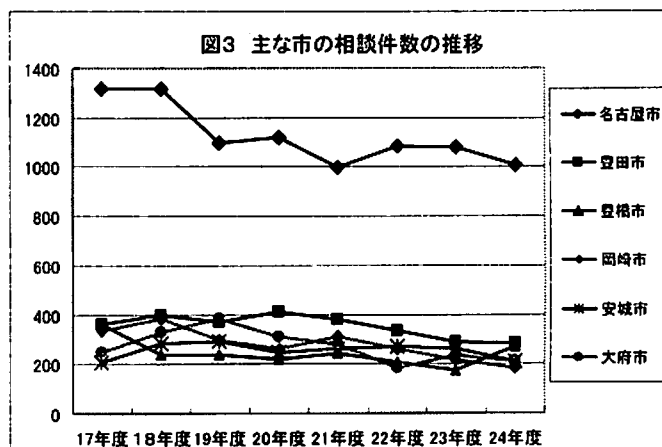
月別相談件数では、4月は昨年度を上回る件数であったが、その後、全ての月で昨年度を割り込んでいる。今年度の減少には、24年4月から、小児救急電話相談事業（#8000）が365日体制となったことも大きな影響と考えられる（図2）。



2 地域・経路について

(1) 利用者の居住地について

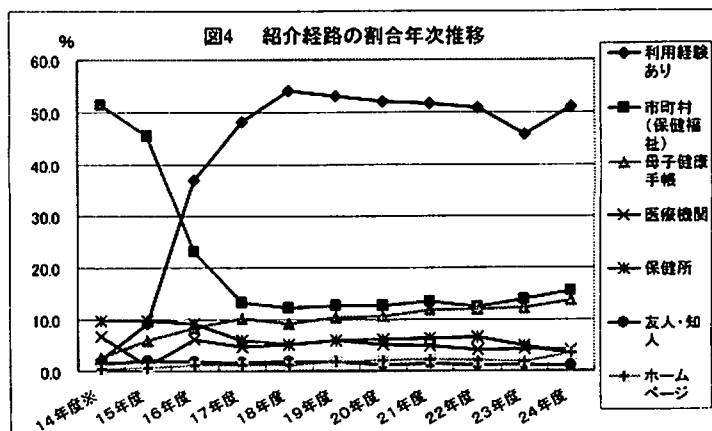
相談者の居住地が把握できた4,799件を分析した。相談は県下ほぼ全域から寄せられおり、市町村別では、名古屋市からの相談件数が1,008件と最多で豊田市、豊橋市、安城市、大府市、岡崎市、春日井市と続いた。名古屋市では、平成19年度「子どもあんしん電話相談」が開設されたため件数の大幅な減少が見られた（図3）。



出生1,000に対する割合をみると、最も高いのは大府市の208.4（昨年度224.4）で身近な相談場所として捉えられているものと考えられる。次に弥富市の184.6（昨年度183.5）であるが、頻回相談者と思われるケースが居住しているためである。それ以外では、津島市165.2次いで東海市141.3、東栄町136.4、日進市、東郷町、知多市の順で高率であった（資料：表1）。

(2) 経路について

相談全体では「利用経験あり」が2,509件（51.0%）で最も多かった。「利用経験あり」は相談を開設した平成14年度（平成13年11月から15年3月、以下同じ）は2.2%であったが、その後年々増加し、平成18年の54.2%をピークに減少の傾向を示しており、昨年度45.7%となったが、本年度は再び51.0%と50%を上回る割合となった。



初回相談者が相談電話の情報を入手した方法は、市町村（保健福祉）からが15.5%、母子手帳交付時からが13.6%、保健所3.2%など、保健機関からの情報によるものが初回相談者の半数以上を占めており、医療機関からも4.1%あった。インターネットの普及からホームページからの割合も増加傾向にあり、県外からの相談52件のうち26件（50.0%）を占めている（資料：表2、図4）。

周知方法としては、名古屋市を含む県内54市町村に「案内カード」の配布等を依頼している。「案内カード」は、母子手帳交付時に配布（27市町村50.0%）、乳幼児健診で全員に配布（18市町村33.3%）、「こんにちは赤ちゃん訪問」「全戸訪問」等の訪問時に配布（17市町村31.5%）、市町村によっては育児情報の冊子作成時に相談機関として掲載する等の周知方法もとられており、一部の小児科・産婦人科医療機関でも配布協力を得ている。

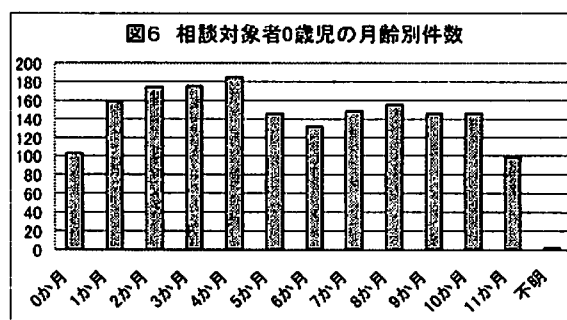
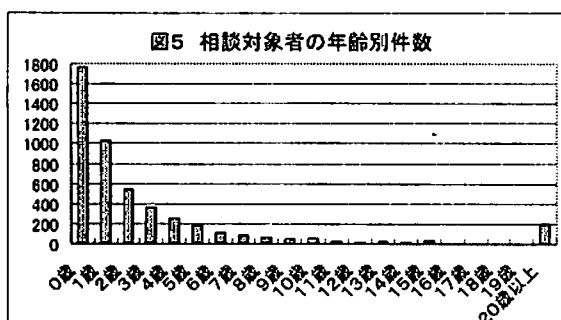
3 相談者・相談対象者について

相談記録では、相談者（電話をかけてきた人）の続柄を相談対象者との関係から本人、母、父、配偶者、祖父母等、兄弟、専門家、その他と分類しているが、母からの相談が91.2%と最も多かった。（資料：表3）。

相談対象者は「子ども」が4,659件（94.6%）で最も多く、「孫、姪、甥」の26件（0.5%）を加えた「子ども」の相談は4,685件（95.1%）であった。「本人」についての相談（母自身のことに関する相談など）は215件（4.4%）であり、経年的にみてもほぼ4%前後の相談がある。（資料：表4）。

相談対象者の年齢では、0歳が1,769件（35.9%）最も多く、昨年度の39.6%に比べその割合は低かった。0歳に次いで、1歳が1,024件（20.8%）、2歳が540件（11.0%）と年齢が増えるに従い減少している（図5）。

0歳児の内訳を見ると4か月頃をピークに増減しており、経年的に見ても同様の傾向であった（図6）。



4 相談の時間帯・所要時間・曜日について

(1) 時間帯・所要時間について

相談の時間帯は17時台1,279件（26.0%）と最も多く、次いで19時台が1,247件（25.3%）であった。

相談の所要時間は、15分未満が3,877件78.7%で、そのうち5～14分が55.3%を占めていた（資料：表5）。

相談内容により、所要時間は異なり、子どもの病気・手当や事故相談では平均して時間が短く、育児不安を含む家族・人間関係や教育、母自身の相談である女性の体と心の相談等では、相談対応時間が長くなっている（後述：図12）。

(2) 曜日について

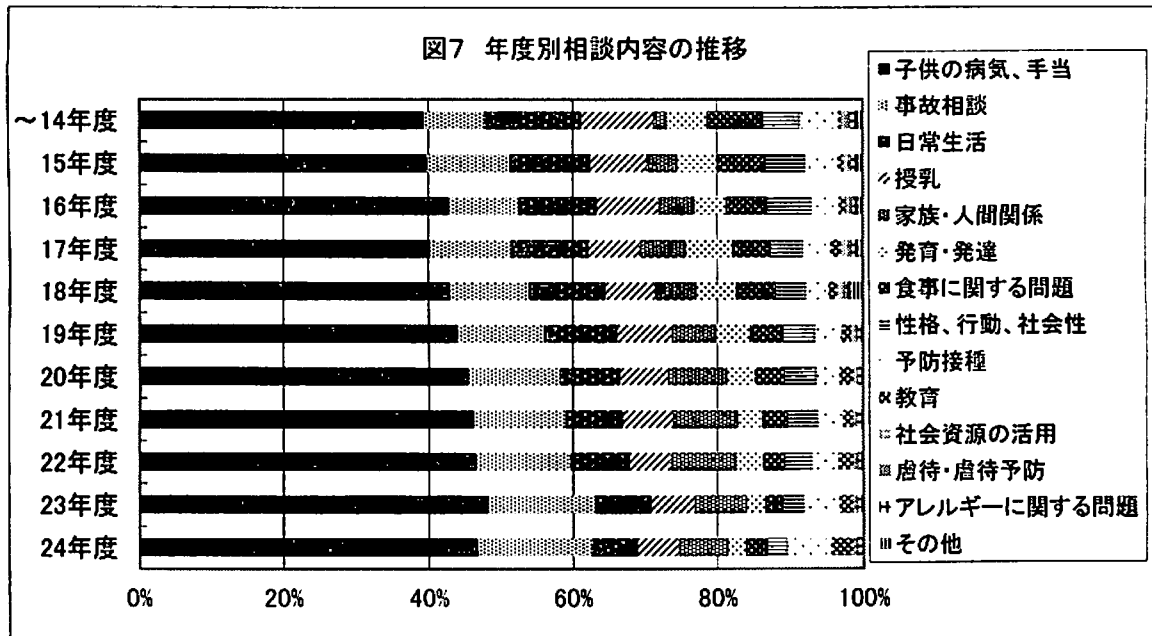
曜日別では、木曜日が1,107件(22.5%)と最も多く、水曜日1,033件(21.0%)、土曜日、火曜日、金曜日の順に多かった。1日あたりの相談件数でも木曜日22.1件、水曜日20.7件、火曜日19.7件、土曜日18.9件、金曜日17.4件の順であった（資料：表6）。

5 相談内容について

(1) 相談内容について

相談員が相談記録作成時に分類した相談内容では、「育児相談」が4,704件(95.6%)と圧倒的に多く、次いで母性相談70件(1.4%)、女性の心と体の相談55件(1.1%)の順であった。（資料：表7）。

「育児相談」4,704件の内訳は「子どもの病気、手当」が2,199件(46.7%)と最も多く、次いで「事故相談」の749件(15.9%)、「家族・人間関係」320件(6.8%)「日常生活」の298件(6.3%)の順で多く、「日常生活」と育児不安を含む「家族・人間関係」の順位が入れ替わった。11年間の育児相談内容の推移から、育児相談の内容の変遷が読み取れる（図7）。



曜日別では、土曜日の「子どもの病気、手当」の相談の割合56.7%は他の曜日の平均44.1%と比べ12.6%高く、「事故相談」は13.6%と他の曜日の平均16.5%より2.9%少なく、「家族・人間関係」は他の曜日の平均7.3%と比べ4.6%と2.7%低く、土曜日は他の曜日と相談内容の構成が異なる（資料：表8）。

(2) 育児相談の内容について

本年度の育児相談 4,704 件の主な内容について資料：表 9 に示した。

1) 「子どもの病気、手当て」 2,199 件 (46.7%)

その時に起きているかぜや消化器、皮膚症状等について、具体的な手当てへのアドバイス、受診の要否についての相談が多かった。また、処方された薬の飲ませ方、使い方等の薬に関する相談 40 件も含まれている。

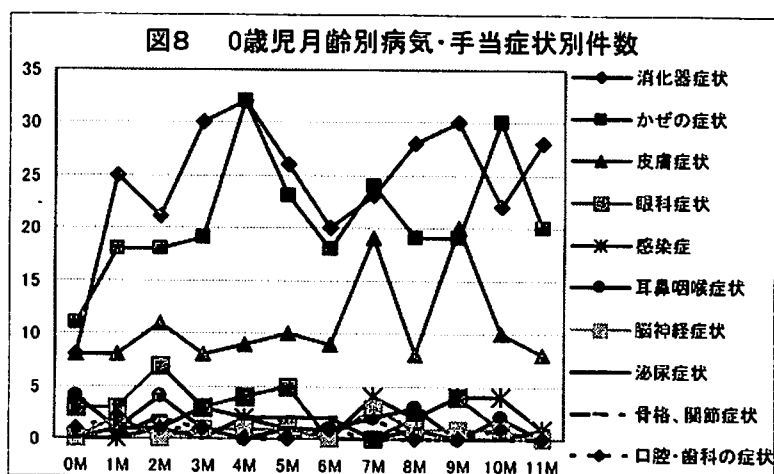
<相談例>

- ・ 3 週間目、くしゃみ、咳、鼻水が出始め受診し薬をもらったが、症状は悪化し本日再受診。鼻水が粘稠で思うように取れない。息苦しそうで呼吸が止まるのではないかと心配。
- ・ 4 か月児、本日 10 時に 38℃、17 時に 39℃で 2 回受診している。抗生剤は処方されているが、熱が高いので再度受診した方がよいか。母乳は飲めている。薄着の方がよいのか。
- ・ 1 歳半児、機嫌が悪いので検温したら 38.9℃あった。風邪症状はなく下痢や嘔吐もない。排尿はある。受診した方がよいか。手持ちの坐薬を使用してよいか。
- ・ 2 か月児、ミルクを吐いた。4~5 回吐いていて顔色悪くぐったりしている。
- ・ 3 か月児、便が 2、3 日に 1 回出る。最近、混合から母乳だけになり、便が緩く酸臭があるが心配ないか。熱はなく他症状もない。母乳は足りている。
- ・ 8 か月児、便が下痢様に軟らかい。線状の血液が少量混じり、ゼリー状のものなども便に混じるが心配はないか？
- ・ 7 か月児、風呂から上がって全身に湿疹が出てきた。昼間は離乳食を食べさせた。本日は初めてのものは食べさせていない。

0 歳児の月齢別症状別相談件数では、かぜ症状 (251 件) よりも消化器症状の相談 (293 件) が多く、皮膚症状も月齢によって、相談の波があるという結果であった (図 8)。

受診すべきか、どう行動すべきか意思決定をするための相談が多い。近年、家庭看護

力の低下が叫ばれている。子の症状を前に、「今すぐ受診すべきか」「どのような状態だったら受診したほうがよいのか。」「どのように手当てしてよいか。」「どこで診てもらえるのか。」など、戸惑う母親の不安が伺われる。また、「受診し服薬はしているが、症状が改善しない。」「病状が変化しているが処方された薬をこのまま飲ませてよいか」など、一般的な病気の経過につ



いての知識・経験不足と祖父母を含む身近な育児経験者への相談機会が少ない現状が伺われる。兄弟等の身近な子どもの病気や看護に触れることなく親になり、子の病気に対する見通しが立たてられずに不安に駆られていることが推測される。相談者自身はどう捉えているか、どう考えているのかをよく聴き、今できていることを認め、見通しを示すことも相談の重要なポイントと考え、次に活かせる相談となるように心掛けている。

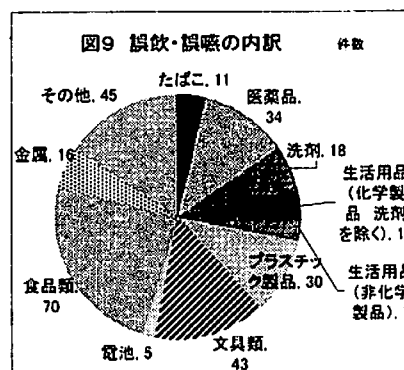
2) 「事故相談」 749 件 (15.9%)

「誤飲・誤嚥」が 274 件 (36.6%) と最も多く、次いで「転落」、「転倒」、「衝突」、「熱傷」と続く。また、事故相談全体で 1 歳未満の子どもについての相談が 237 件 (31.9%) を占めていた。

< 誤飲・誤嚥したもの >

誤飲・誤嚥の内容について、図 9 に示す。

- ・「食品」での 0 歳児では、はちみつの誤使用、赤ちゃんせんべいや柿の詰まりであった。1 歳以上では、魚・肉の骨が 20 件、果実 (種) 9 件、酒類 7 件、生肉 6 件、飴玉 6 件等与える形状が月齢に見合わないものも多かった。



- ・「文具」の誤嚥では、ビニール類、紙類、ゴム類、クレヨン、シール等の順で多かった。画鋲が便から出てきて、飲んだことが判明したという例もあった。

- ・「医薬品」では 0 歳、1 歳児で「軟膏類等の外用薬を舐めた」が多く、兄弟の薬を飲ませ間違えた例や 4 日分の薬を一度飲んでしまった等過剰摂取で受診を勧めたものもあった。

< 転落・転倒 >

- ・「転落」131 件中、椅子からが 43 件、家具 34 件、階段からの転落も 16 件あった。1 歳児で階段からの転落後、4 日経って骨折が判明した例や 2 歳児でジャングルジムから転落し舌をひどく切った例があった。

- ・「転倒」122 件中、居室での転倒が 72 件 (55.0%) と多く、道路 13 件、風呂 7 件と続く。2 歳児で、転倒し前歯が口唇を貫通したため、救急受診をしたという相談もあった。

< 熱傷 >

- ・熱傷 32 件のうち、0 歳児が 12 件 (37.5%) であった。熱傷で最も多いのは「卓上のお湯、熱いスープ等」13 件で、大人の膝上で起こることも多いため、注意喚起が必要である。その他「ポット・炊飯器等」調理器が 8 件、暖房機器では 1 件のみであった。

事故相談では、保護者の事故に対する焦りや自責の気持ちに寄り添い、まずは状況を的確に捉えて、冷静な対応を促す。その後、落ち着いたら、発達段階に合わせ、今後起こりうる事故についての情報提供をする等、再発防止について助言している。事故相談は家族の手がある土曜日に少ないことか

らも、環境整備により防ぐことが可能なものも多い。相談件数としては、微増しており、広く啓発の必要があると考える。

3) 「家族・人間関係」 320 件 (6.8%)

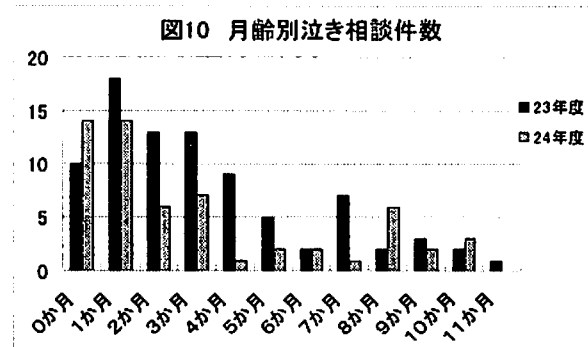
「育児不安」が 196 件 (61.3%) で最も多く、次いで「家族内の人間関係」62 件 (19.4%)、「近所との付き合い」50 件 (15.6%) と続き、「育児不安」の割合が昨年度の 74.5% より減少し、「家族内の人間関係」「近所との付き合い」が 12.2、9.4% に比べ増加している。

「育児不安」では、子どもが発達障害と診断を受けて、自分が障がい児を生んでしまった自責や健常児と比べてしまうこと、自分の育児方法に対する不安があり、時々ストレスが溜まり知らない人に聞いてもらいたくなるといった相談もある。「家族内の人間関係」では、病気を持ちながらの育児で、頑張れない自分を悲しみ、夫にも言えず、疲労感を吐露できる場として活用している例もある。また、「近所との付き合い」上、ママ友とのメールトラブルによる相談もあった。自分の育児に自信が持てず、社会的にもうまく立ち振る舞えない不器用な母が孤立している様子が伺われる。

「家族・人間関係」の相談では、213 件 (66.6%) が「利用経験あり」で、そのうち 7 歳以上の子を持つ親や親自身からの相談が 130 件 (40.6%) であった。就学以降は身近な相談機関が明確でなく、子どもが大きくなっても子育ての大変さや不安はとどまることがないため、親たちの迷いや不安な気持ちを口に出せる場として時間外電話相談は活用されている。

4) 「日常生活」 298 件 (6.3%)

「泣き」についての相談が 94 件 (31.5%) と最も多く、0 歳児の相談が 58 件 (61.7%)、中でも 1~2 か月の相談が多く見られた(図 10)。今年度から、県が作成した『揺さぶられ症候群』予防のための『PURPLE Crying』の DVD 活用が各市町村、医療機関等で始まり、生後 6 週間くらいから見られる夕暮れ時の「泣き」に対する予備知識を得られたためか、2~4 か月時の相談件数が大きく減少した。



<相談例>

- ・ 2 か月女児、母乳を与えても 5 分ほどしては寝てしまい、5 分ほどで起きて泣く。その繰り返しでは疲れてしまった (泣)。どうしたらよいか途方に暮れた。

『泣く』という子どもの行動から「母乳不足」「体調不良」「どこかの痛み」等、児の要求を読み取り、適切に対応することは大変難しい。生後 1 か月もしてくると、声も大きくなり、力強い泣きをすることもあり、母の不安も募るばかり。まず、相談者の気持ちを落ち着かせるための方策を伝

えることから始めている。また、周囲の何気ない言葉や態度が、母を苦しめることがあるため、夫をはじめ周りにも「泣き」への理解を深める必要がある。

「睡眠」「しつけ」が31件(10.4%)、「トイレトレーニング」21件(7.4%)「入浴・清潔」19件(6.4%)と続く。これらの基本的な生活習慣に関する相談が一層減っていることは、これらを通じた親子の関わりのお少なさにつながっているのではないかと危惧される。

5) 「予防接種」277件(5.9%)

予防接種の有用性、必要性が認められ、近年、ワクチンの種類の増加、早期からの接種や同時接種の勧奨がされていることから、相談件数も増加している。「副反応」196件(70.8%)のうち、肺炎球菌、三種混合、インフルエンザ菌b型(Hib)の順に多かった。

6) 「授乳」265件(5.6%)

「授乳方法」に関する相談が72件(27.2%)と多く、内容は授乳間隔や回数、授乳量のムラ、離乳食との併用量に関するものが主であった。次いで「吐乳・溢乳」58件(21.9%)と続く。「授乳と薬」50件(18.9%)についての相談が割合としては増加しており、母が体調の悪いつらさに加え、「授乳してよいか」「中止するよう言われたが、児は欲しがる」等に悩むつらさが伺われる。市販の薬はもとより大半の薬剤が母の体調を優先してよいことを科学的根拠に基づいた手引書を参考に、研修で得た情報を共有するなどし、適切に助言できるよう相談の質の向上を図っている。

7) その他

「虐待・虐待予防」は21件(0.4%)であり件数は昨年度より少なかったが、「精神状態が不安定になり1歳8か月児を投げつけてしまった。今は夫に子どもを任せて自分はビジネスホテルに来ている。これからどうしたらよいのか迷って電話をした。」という相談や複数回にわたる統合失調症の母からの「自分も叩かれて育った。反抗的な子に手をあげた。」との相談があり、翌日、管轄の保健機関へ連絡したケースもあった。地域の保健機関が介入していることを確認し、継続フォローを依頼している。

匿名相談ではあるが、気になるケースについては、相談対象が明確でなくともできる限りの情報提供を行い、地域の保健機関と連携をとっている。

6 相談結果について

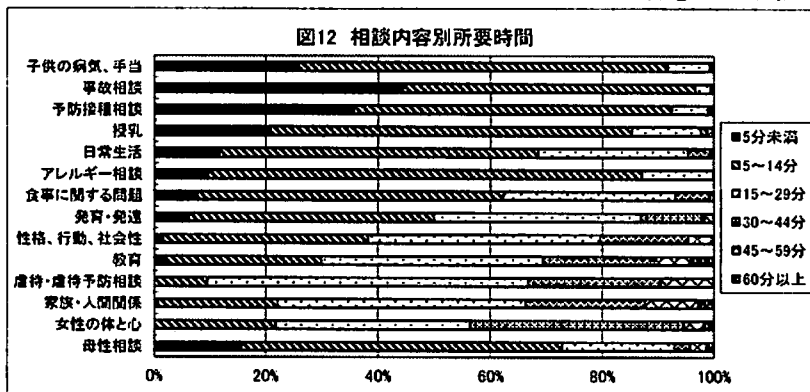
電話相談は原則匿名で1回の相談での終了が前提となっているため、利用経験がある場合も継続支援とはしていない。したがって、頻回相談者の場合でも初めて話を聞くのと同様な対応をしている。

7 本年度の相談の結果から

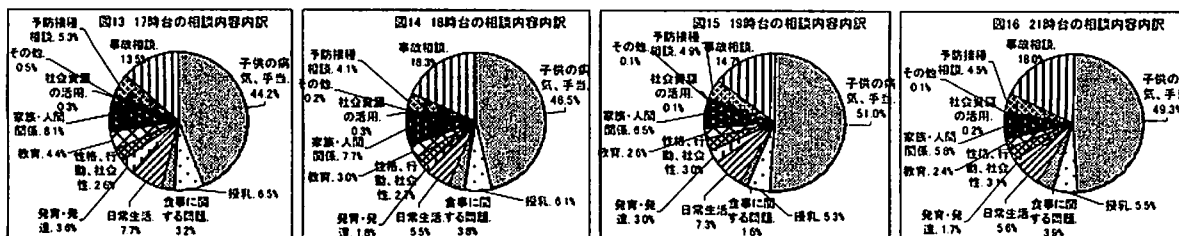
相談件数の推移をみると18年度をピークとしてその後は減少傾向にある。これを照会経路別にみると、「利用経験あり」の件数のカーブと「相談件数」

のカーブとが平行していることがわかる（図 11）。つまり「利用経験あり」相談件数の減少が、相談件数減少の主な要因と考えられた。

また、「利用経験あり」に多い育児不安を含む「家族・人間関係」や「教育」等の相談では、相談時間が他の問題に比べ所要時間が長いため、対応可能な相談件数の頭打ちにつながり、かつ電話をかけても繋がらない状況を作っている可能性もある（図 12）。



相談内容の「子どもの病気、手当」が昨年度の 48.2%より 46.7%と減少したことは、この 4 月から小児救急電話# 8000 が 365 日体制となった影響と考えられる。しかし、時間帯別相談内容を見てみると、# 8000 の実施時間である 19 時以降でも「子どもの病気・手当」の割合は減少することなく、僅かながら割合が高くなっていった（図 13、14、15、16）。



対応不能な電話の数では、一時は相談件数の半数を超えていたが、年々減少し、昨年度の 1,016 件から 744 件へと減少してはいるものの、今なおニーズに応えられない状況にあり、この状況の改善をしてこなかったことが影響している可能性がある。対応不能の要因は、相談集中時の回線数不足であることが明らかである。

8 まとめ

本事業は平成 13 年 11 月のセンター開設と同時に開始され、関係機関からも高い認知度と期待を受けて運営されてきた。社会の育児問題が反映されており、ニーズ把握に役立てることができるとともに貴重な機会でもある。県内の小児保健の中核的支援機能を有する当センターの保健事業のひとつとして、今後も継続する必然性がある。

表1 市町村別の利用状況

資料

	市町村	件数	出生 1,000対	H23 出生数		市町村	件数	出生 1,000対	H23 出生数
1	名古屋市	1,008	50.7	19,868	30	小牧市	44	32.6	1,351
2	豊田市	283	69.6	4,064	31	東浦町	42	101.7	413
3	豊橋市	270	77.2	3,496	32	高浜市	41	85.1	482
4	安城市	209	106.7	1,958	33	蒲郡市	40	67.0	597
5	大府市	209	208.4	1,003	34	江南市	40	50.1	798
6	岡崎市	183	46.6	3,926	35	常滑市	35	69.6	503
7	春日井市	177	58.3	3,034	36	尾張旭市	33	45.9	719
8	東海市	176	141.3	1,246	37	田原市	32	55.0	582
9	一宮市	175	50.7	3,455	38	愛西市	30	76.1	394
10	刈谷市	138	78.8	1,752	39	扶桑町	29	81.7	355
11	日進市	123	122.3	1,006	40	岩倉市	27	57.1	473
12	豊川市	114	67.4	1,692	41	犬山市	26	44.8	580
13	西尾市	111	75.7	1,467	42	幸田町	21	42.9	489
14	半田市	91	85.0	1,071	43	蟹江町	15	46.4	323
15	知多市	88	112.0	786	44	豊山町	15	89.3	168
16	稲沢市	86	76.5	1,124	45	大治町	13	37.7	345
17	弥富市	79	184.6	428	46	阿久比町	13	47.4	274
18	津島市	73	165.2	442	47	新城市	10	33.2	301
19	清須市	72	96.5	746	48	美浜町	8	53.3	150
20	知立市	63	83.1	758	49	大口町	7	31.7	221
21	北名古屋市	58	65.0	892	50	南知多町	5	44.2	113
22	あま市	57	73.3	778	51	東栄町	3	136.4	22
23	瀬戸市	54	57.8	935	52	設楽町	1	45.5	22
24	東郷町	51	114.3	446	53	豊根村	0	0.0	3
25	長久手市	48	80.3	598	54	飛鳥村	0	0.0	41
26	碧南市	48	75.2	638		県内不明	33	0.8	41,669
27	みよし市	47	69.6	675		愛知県下 (含名古屋市)	4,747	68.8	68,973
28	武豊町	47	120.8	389		他県	52		
29	豊明市	46	79.2	581		不明	124		
						合計	4,923		

表2 年度別経路

経路	利用経 験あり	利用なし(回数等)	母子健 康手帳	医療機 関	保健所	友人・知 人	ホーム ページ	子育て 支援 センター	院内	幼稚園・ 保育園 等	学校	児童相 談セン ター	その他	不明	計
14年度	105 (2.2)	2492 (51.4)	128 (2.6)	328 (6.8)	475 (9.8)	66 (1.4)	25 (0.5)	37 (0.8)	53 (1.1)	52 (1.1)	3 (0.1)	19 (0.3)	155 (3.6)	908 (18.7)	4846 (100.0)
15年度	501 (9.1)	2,500 (45.6)	322 (5.9)	63 (1.1)	667 (9.8)	113 (2.1)	36 (0.7)	16 (0.3)	8 (0.1)	667 (12.2)	49 (0.9)	16 (0.4)	204 (3.7)	430 (7.8)	5,488 (100.0)
16年度	2290 (37.1)	1414 (22.9)	517 (8.4)	377 (6.1)	565 (9.1)	119 (1.9)	74 (1.2)	35 (0.6)	80 (1.3)	21 (0.3)	5 (0.1)	10 (0.2)	220 (3.6)	448 (7.3)	6,175 (100.0)
17年度	3,124 (48.2)	854 (13.2)	661 (10.2)	303 (4.7)	376 (5.8)	102 (1.6)	76 (1.2)	24 (0.4)	69 (1.1)	19 (0.3)	11 (0.2)	7 (0.1)	175 (2.6)	677 (10.4)	6,478 (100.0)
18年度	3,652 (54.2)	821 (12.2)	611 (9.1)	343 (5.1)	340 (5.0)	118 (1.8)	81 (1.2)	43 (0.6)	32 (0.5)	6 (0.1)	4 (0.1)	9 (0.1)	121 (1.8)	554 (8.2)	6,735 (100.0)
19年度	3,429 (53.0)	821 (12.7)	666 (10.3)	379 (5.9)	387 (6.0)	120 (1.9)	112 (1.7)	35 (0.5)	45 (0.7)	7 (0.1)	2 (0.0)	4 (0.1)	52 (0.8)	412 (6.4)	6,471 (100.0)
20年度	3,276 (52.0)	796 (12.6)	665 (10.6)	315 (5.0)	383 (6.1)	80 (1.3)	129 (2.0)	40 (0.6)	35 (0.6)	3 (0.0)	3 (0.0)	3 (0.0)	74 (1.2)	492 (7.8)	6,294 (100.0)
21年度	3,180 (51.7)	832 (13.5)	725 (11.8)	297 (4.8)	382 (6.2)	84 (1.4)	135 (2.2)	23 (0.4)	13 (0.2)	7 (0.1)	4 (0.1)	3 (0.0)	52 (0.8)	416 (6.8)	6,153 (100.0)
22年度	3,027 (50.8)	743 (12.5)	711 (11.9)	240 (4.0)	385 (6.5)	68 (1.1)	122 (2.0)	27 (0.5)	9 (0.2)	8 (0.1)	4 (0.1)	4 (0.1)	41 (0.7)	571 (9.6)	5,960 (96.9)
23年度	2,725 (45.7)	828 (13.9)	730 (12.2)	250 (4.2)	295 (4.9)	68 (1.1)	113 (1.9)	29 (0.5)	18 (0.3)	10 (0.2)	2 (0.0)	1 (0.0)	39 (0.7)	380 (6.4)	5,488 (100.0)
24年度	2,509 (51.0)	762 (15.5)	671 (13.6)	201 (4.1)	158 (3.2)	53 (1.1)	167 (3.4)	32 (0.7)	31 (0.6)	2 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	31 (0.6)	305 (6.2)	4,923 (100.0)

表3 相談者の続柄

相談者続柄	件数	割合
母	4,492	91.2%
本人	216	4.4%
父	161	3.3%
祖父母等	26	0.5%
配偶者	14	0.3%
きょうだい	0	0.0%
専門家等	2	0.0%
その他	1	0.0%
不明	11	0.2%
合計	4,923	100.0%

表4 相談対象者

	件数	割合
子ども	4,659	94.6%
本人	215	4.4%
孫・甥・姪等	26	0.5%
配偶者	10	0.2%
きょうだい	2	0.0%
患者等	0	0.0%
その他	0	0.0%
不明	11	0.2%
総計	4,923	100.0%

表5 時間帯と所要時間

所要時間	17時台	18時台	19時台	20時台	不明	合計
5分未満	272 21.2%	304 24.7%	312 25.0%	268 23.6%	3 9.7%	1,159 23.5%
5～14分	686 53.6%	671 54.6%	697 55.9%	656 57.8%	17 54.8%	2,727 55.4%
15～29分	215 16.8%	170 13.8%	167 13.4%	170 15.0%	6 19.4%	728 14.8%
30～44分	78 6.1%	56 4.6%	45 3.6%	35 3.1%	1 3.2%	215 4.4%
45～59分	19 1.5%	23 1.9%	23 1.8%	5 0.4%	0 0.0%	70 1.4%
60分以上	11 0.9%	6 0.4%	3 0.2%	0 0.0%	4 40.0%	24 0.5%
全体	1,281 26.0%	1,230 25.0%	1,247 25.3%	1,134 23.0%	31 0.6%	4,923 100.0%

表6 曜日別状況

	件数							全体
	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	月曜日		
H15年度以前	2,802 19.3%	3,162 21.8%	3,341 23.1%	3,037 21.0%	502 3.5%	1,684 11.6%		14,492 100.0%
H16年度	1,264 20.5%	1,423 23.0%	1,349 21.8%	1,277 20.7%	862 14.0%			6,175 100.0%
H17年度	1,359 21.0%	1,438 22.2%	1,349 20.8%	1,267 19.6%	1,065 16.4%			6,478 100.0%
H18年度	1,289 19.1%	1,425 21.2%	1,506 22.4%	1,320 19.6%	1,195 17.7%			6,735 100.0%
H19年度	1,221 18.9%	1,480 22.9%	1,395 21.6%	1,262 19.5%	1,113 17.2%			6,471 100.0%
H20年度 (1日平均件数)	1,160 (27.6) 18.4%	1,365 (27.9) 21.7%	1,406 (27.6) 22.3%	1,223 (24.5) 19.4%	1,137 (22.3) 18.1%			6,294 (25.9) 100.0%
H21年度 (1日平均件数)	1,159 (27.0) 18.8%	1,321 (27.5) 21.5%	1,301 (27.1) 21.1%	1,255 (24.6) 20.4%	1,117 (21.9) 18.2%			6,153 (25.5) 100.0%
H22年度 (1日平均件数)	1,163 (25.8) 19.5%	1,239 (25.3) 20.8%	1,290 (26.9) 21.6%	1,191 (23.8) 20.0%	1,077 (21.1) 18.1%			5,960 (24.5) 100.0%
H23年度 (1日平均件数)	1,055 (23.4) 19.2%	1,165 (22.8) 21.2%	1,149 (23.4) 20.9%	1,056 (21.6) 19.2%	1,063 (20.8) 19.4%			5,488 (22.4) 100.0%
H24年度 (1日平均件数)	946 (19.7) 19.2%	1,033 (20.7) 21.0%	1,107 (22.1) 22.5%	871 (17.4) 17.7%	966 (18.9) 19.6%			4,923 (19.8) 100.0%

表7 相談分類

相談分類	件数	割合
育児相談	4,704	95.6%
母性相談	70	1.4%
女性の心と体の相談	55	1.1%
思春期相談	24	0.5%
その他	70	1.4%
合計	4,923	100.0%

表8 育児相談の曜日別状況

内容	全体		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日	
子供の病気、手当	2,199	46.7%	376	41.5%	455	46.4%	463	44.0%	378	45.2%	527	56.7%
事故相談	749	15.9%	150	16.6%	148	15.1%	182	17.3%	143	17.1%	126	13.6%
日常生活	298	6.3%	58	6.4%	65	6.6%	68	6.5%	62	7.4%	45	4.8%
家族・人間関係	320	6.8%	69	7.6%	79	8.1%	73	6.9%	56	6.7%	43	4.6%
授乳	265	5.6%	55	6.1%	56	5.7%	53	5.0%	42	5.0%	59	6.4%
予防接種	277	5.9%	43	4.8%	63	6.4%	65	6.2%	45	5.4%	61	6.6%
性格、行動、社会性	128	2.7%	33	3.6%	16	1.6%	33	3.1%	29	3.5%	17	1.8%
発育・発達	114	2.4%	30	3.3%	20	2.0%	30	2.9%	23	2.7%	11	1.2%
食事に関する問題	143	3.0%	37	4.1%	22	2.2%	32	3.0%	25	3.0%	27	2.9%
教育	140	3.0%	35	3.9%	45	4.6%	34	3.2%	22	2.6%	4	0.4%
虐待・虐待予防	21	0.4%	5	0.6%	2	0.2%	7	0.7%	7	0.8%	0	0.0%
アレルギーに関する問題	31	0.7%	8	0.9%	5	0.5%	11	1.0%	3	0.4%	4	0.4%
社会資源の活用	9	0.2%	2	0.2%	3	0.3%	0	0.0%	2	0.2%	2	0.2%
その他	10	0.2%	4	0.4%	2	0.2%	1	0.1%	0	0.0%	3	0.3%
計	4,704	100.0%	905	19.2%	981	20.9%	1,052	22.4%	837	17.8%	929	19.7%

表9 育児相談(4,704件)の主な内容

	①	件数	②	件数	③	件数	④	件数
		子供の病気、手当	2,199 (46.7%)	事故相談	749 (15.9%)	家族・人間関係	320 (6.8%)	日常生活
主な内容	かぜの症状	800	誤飲・誤嚥	290	育児不安	196	泣き	94
	消化器症状	566	転落	131	家族内の人間関係	62	睡眠	31
	皮膚症状	256	転倒	122	近所との付き合い方	50	しつけ	31
	感染症	103	衝突	100	職場関係	5	トイレトレーニング	21
	耳鼻咽喉症状	86	熱傷	32			入浴・清潔	19

	⑤	件数	⑥	件数	⑦	件数	⑧	件数
		予防接種	277 (5.9%)	授乳	265 (5.6%)	食事に関する問題	143 (3.0%)	教育
主な内容	副反応	196	授乳方法	72	離乳食・幼児食	71	小学校	77
	接種時期・方法	50	吐乳、溢乳	58	飲まない 食べない	24	幼稚園、保育園	32
	効果	16	授乳と薬	50	食事のしつけ	10	中学校	18
			乳汁を飲まない	25	食べ過ぎる	7		
			卒乳	12	離乳準備 飲み込まない・噛まない	4 4		

	⑨	件数	⑩	件数	⑪	件数	⑫	件数
		性格、行動、社会性	128 (2.7%)	発育・発達	114 (2.4%)	アレルギーに関する問題	31 (0.7%)	虐待・虐待予防
主な内容	言うことを聞かない	47	発育の評価	40	食物アレルギー	28	子どもへの虐待	12
	赤ちゃん返り	11	言語発達	19	気管支喘息	1	親への支援	7
	習癖	11	精神発達	17	花粉症	1		
	いじめる いじめられる	7	運動発達	12				
	友達と遊べない	7	体重増加不良	6				

	⑬	件数
		社会資源の活用
主な内容	子育て支援	5